

成果

地域の学校で、地域の仲間とともに学ばせたいという保護者の願いを大切にしながら、居住地校との交流及び共同学習を積極的に進めることができている。

・副学籍のある学校との交流及び共同学習では、入学式・卒業式などの儀式的な行事への参加に加え、運動会、宿泊学習、文化祭などの行事へも参加し、当日の活動だけではなく事前学習から一緒に学習する中で児童の主体的な活動の姿が見られた。

・居住地校交流においては、低学年から継続して交流を重ねてくる中で、交流相手校の児童生徒教職員との相互理解の広がりがみられた。

・居住地校を訪問しての交流だけでなく、相手校の児童生徒が伊那養護学校へ来校し交流を行う事例もあり、双方向の交流及び共同学習の推進、特別支援教育の理解啓発につながる方向がみられた。

＊主な交流内容…プール遊び、簡単なゲームやダンス、調理活動、工作、遠足、運動会練習参加・運動会参加、音楽会練習参加・音楽会参加、焼き芋会・収穫祭等

課題

①居住地校交流を積極的に進めたい場合（回数を増やすなど）に、教員が毎回引率することには学級体制上難しさがある。保護者の協力、交流相手校の理解と協力を得ながら運営について検討する必要がある。

②伊那養護学校と交流相手校の児童生徒にとって、交流の側面だけではなく、双方が各教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面も充実できるように、交流の在り方を検討する必要がある。

③交流及び共同学習の実践を通して、障害のある子どもへの適切な支援の在り方を小・中学校に発信していくことも大切と考える。（授業のユニバーサルデザイン化に向けた発信など）